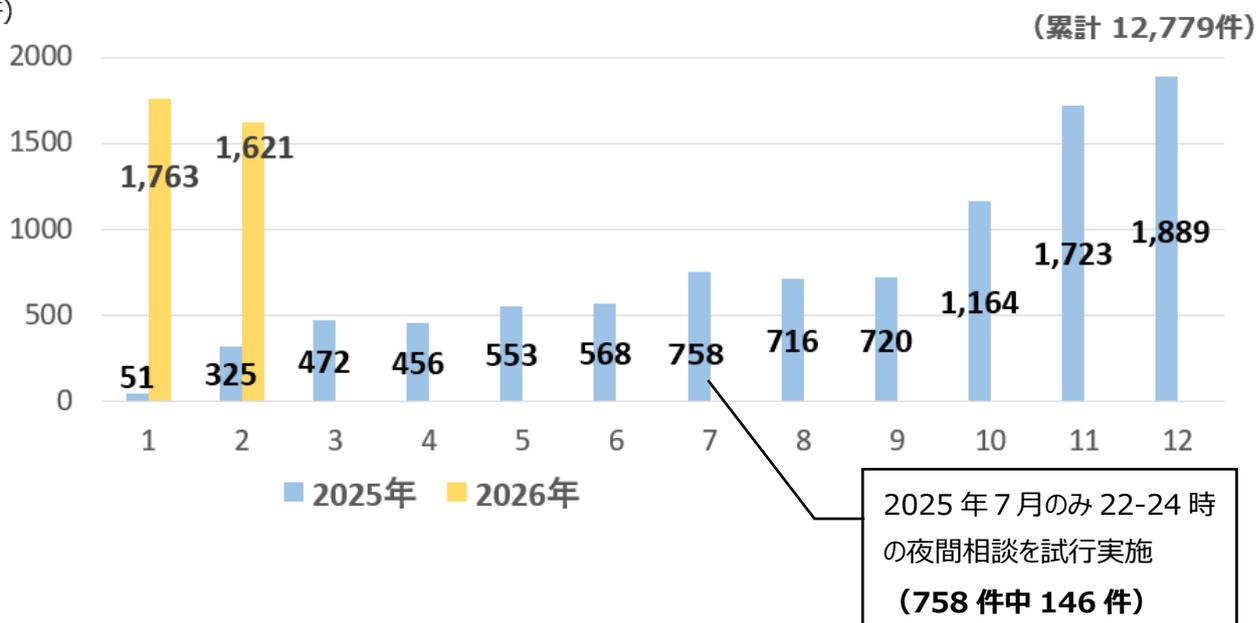


別紙

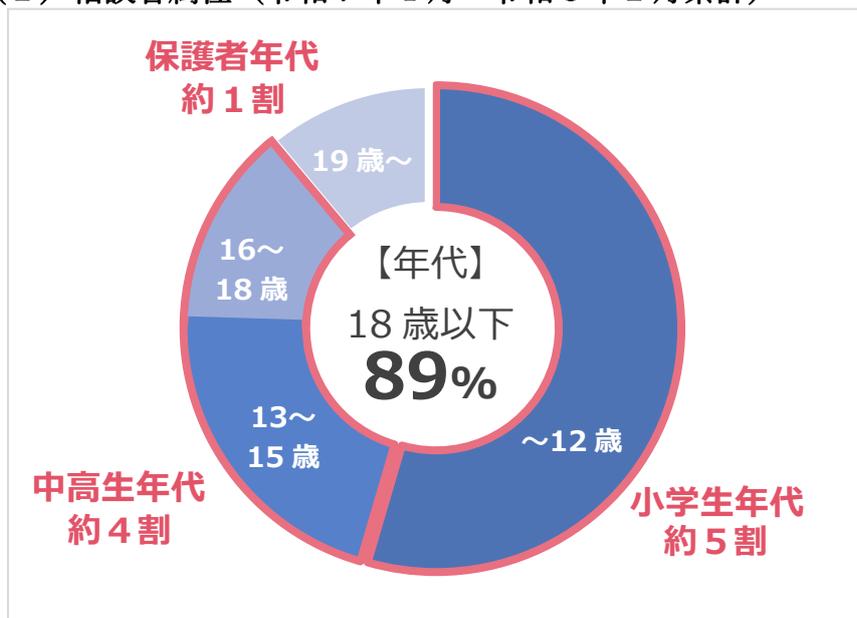
○先行稼働期間の実績（令和7年1月24日～令和8年2月28日）

(1) 月別相談件数

(件)



(2) 相談者属性（令和7年1月～令和8年2月累計）



(3) 相談内容（上位3項目）

	小学生年代	中高生年代	保護者
1位	学校生活 (29.3%)	心身の健康 (23.1%)	子育て (55.4%)
2位	人間関係 (15.3%)	学校生活 (16.5%)	家庭環境 (14.0%)
3位	家庭環境 (14.6%)	勉強・進学 (12.5%)	心身の健康 (9.6%)

※ () 内の割合は、全体から「その他（主訴不明等）」を除いて算出しています。

(4) ユーザーレビュー

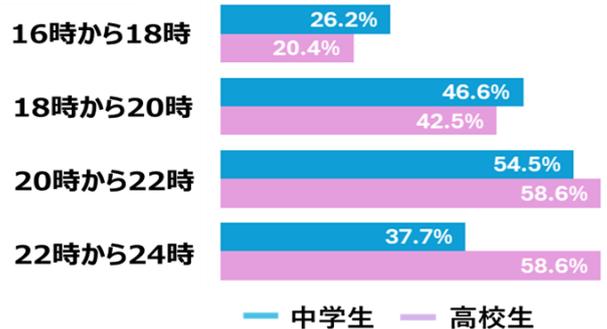
★★★★☆ 4.3

- 子供が生まれて分からないことがたくさんあったが、参考になることを教えてくれた。
- 気持ちをうまく伝えられるか不安でしたが、また相談したいと思いました。
- もう少し相談できる人や時間を増やせば、いろんな人が相談できると思う。

(5) こども都庁モニター 第6回アンケート結果（抜粋）

Q.「ギョッとチャット」のようなサービスを利用する
としたら、どの時間帯に利用したいですか。
※複数回答

【平日の場合】



○事業の背景

東京都は、子供や子育て家庭の感じる孤独や不安が増している中で、日常的な不安や悩みを気軽に相談できるプラットフォームづくりを推進してきました。利用者が多様な相談相手の中から話を聴いてもらいたい人を選択し、相談相手が子供・子育て家庭に傾聴・共感することで、孤独・孤立による不安や悩みの予防・解消につなげていきます。

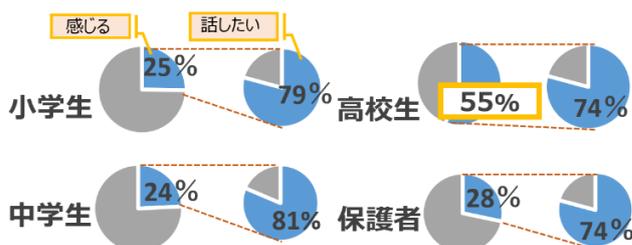
本事業の運営や機能などを検討するため、利用対象者となる東京都内在住の子供（小、中、高）と保護者、約3,200人を対象とした調査を令和5年7月に実施しました。

孤独・孤立を感じるか、孤独感を感じる時に誰かと話したいか調査したところ、孤独や孤立を感じる人の7～8割が他者とのつながりを求めていることが分かりました。

また、相談相手を選べたり、継続して同じ相談相手に話を聴いてもらいたいというニーズがあることも分かりました。

孤独・孤立を感じる状況

Q.孤独や孤立を感じるか、孤独感を感じる時に誰かと話したいか
⇒孤独や孤立を「感じる」と答えた人のうち、「誰かと話したい」人の割合



👉 高校生の半数以上が、孤独や孤立を感じ、他者とのつながりを求める傾向がある

相談相手を選んだり、継続的に相談できること

Q.選択や継続ができることをどう思うか
⇒「良い」「まあまあ良い」と答えた人の割合



👉 相談相手の選択、継続に対し好意的な意見が多数